

## 平成 30 年度 学校経営計画

附属中等教育学校

校長 藤田 弘嗣

昨年度の学校評価や今年度の新しい状況をふまえ、平成 30 年度「学校経営計画」を定めましたので、お知らせします。

領域	テーマ	方策等
学習指導	1 授業改善	指導教諭，授業力向上委員会の支援の下，授業改善に取り組む。授業アンケートを実施し，評価平均3.0以上を実現できるよう最大限の努力を払う。また，生徒の学習課題が集中しないよう分散化に努める。
	2 教育課程	次期学習指導要領の動向をふまえながら，必要な教育内容の見直しを図りつつ，評価の充実を図る。「道徳」・HRについては，WGによる内容上の検討をふまえて，実施する。
	3 協同学習	協同学習について研究開発事業やSGHとも連携しつつ，主体的・対話的で深い学び実現の柱として理論的に再整理しつつ，後期課程での実践を広げる。
	4 Kobeプロ	卒業研究をはじめとするKPに関する各種書式を統一すると共に，調査用図書の拡充を図る。4・5KPの指導体制を強化するため，後期課程を中心に部門ごとの教員カンファレンスを実施する。
	5 ICT教育	生徒のアカウント確保のため，情報基盤センターとの交渉を継続する。ICT教育を発展させ，研修を通じた共有化を図る。次期学習指導要領の動向をふまえ，情報科・ICT教育推進室を中心に計画を策定する。
	6 食育指導	ESD(総合的な学習の時間及び道徳)の一貫として教科の枠をこえた食育の充実を図り，1.2年で給食を実施する。アレルギー対策としてエビペン研修を行なう。
生徒指導	7 自主活動	行事検討委員会と連携し，生徒会執行部活動及び生徒による諸行事(文化祭・体育祭・音楽祭等)を支援する。執行部との副校長懇談会を再開する。また，他学年生徒との交流を通じて上・下級生の一体感の醸成を促す。
	8 宿泊行事	学校行事改革を継続し，修学旅行及び沖縄研修を成功させる。また，次年度シドニー修学旅行の準備を進める。GAP宿泊行事ではSGH課題研究との関連を明確にしつつ，各宿泊行事を成功させる。
	9 部活動支援	「働き方改革」と連動した新規部活動方針の周知を図る。各部は生徒等との意思疎通を図りながら部活動の具体化について検討する。外部コーチ制を拡充しつつ支援員制度の設置を大学に要請する。
	10 生活指導	シティズンシップ，倫理観，人権意識の育成に関して，「互いを認めあう」をキーワードに，道徳・HR等を通して，学校としての組織的な教育を行う。
	11 教育相談	スクールカウンセラーと連携した教育相談事業を継続する。QU活用を定着させ，個々の生徒に応じた学習支援体制を継続する。家庭状況の変化についての研修を行う。
	12 生徒福利	購買部設置4年目にあたり，生徒会・保護者の要望を踏まえ，必要な改善を検討する。異常気象下の空調については，各種要望等の調査をふまえ財政問題も含め総合的に検討する。
進路指導	13 進路指導	学習困難者に対する相談体制を強化する。後期課程での進路に関する指導を綿密に行うと共に，各種資料の分析などを通して，情報の組織的共有を図る。
	14 進路保障	6年では，生徒の進路希望実現に向けた進路指導・相談を丁寧に行うと共に，学務部と学年が協力して進路保障に尽力する。7回生以降に向けた新制度入試対応を進める。
	15 進路広報	進路情報の公開を継続すると共に，学年保護者会等を通して，前期課程も含めた生徒・保護者への進路広報活動を強化する。
研究政策	16 キャリア教育	道徳等WGを通して，キャリア教育の関連について理論上の整理を行うと共に，神戸大学day，インターンシップ等の事業を実施する。全学年を通してキャリア教育に力を入れる。
	17 SGH 研究開発	SGH指定4年目。海外研修の改善を図ると共に報告会・公開授業研究会等を成功させる。また，中間評価の結果を受けグローバル意識と教科学力についての検

		証を行うと共に事業ごとの評価を行う。
	18 SGH 課題研究	SGH「課題研究」については、卒業研究の枠組みを利用して継続実施する。4・5年KPを中心に教員の指導体制、評価制度を強化すると共に、SDGs（持続可能な開発目標）の視点を強化し大学の支援体制を整備する。
	19 国際交流国内研修	経費削減による海外派遣について生徒に一定の負担を求める。GAPを計画的に実施し、学びの履歴の一環と位置付ける。ケンブリッジCVCとの交流校協定交渉を行う。留学生受入れ等を円滑に進める。
	20 地歴研究開発	研究開発学校延長2年次にあたり、新科目「地理総合」、「歴史総合」の研究開発を実施する。学術会議等との連携を深め、運営指導委員会、公開授業研究会等を円滑に行う。
	21 ユネスコスクール	SDGsの視点を強化し、SGH事業とも連携しつつ、ESD・国際理解やアートマイル、フードプロジェクト等のユネスコスクールの取組を継続発展させる。
	22 研究活動	公開授業研究会とSGH報告会の1日開催を継続する。各種応募型プロジェクト（ヘルスプロモーション、生物多様性等）を推進する。道徳について実践研究を行う。
危機管理	23 安全管理安全教育	防災訓練を実施し防災意識を徹底する。神戸市の支援を得て、防災備蓄物資の拡充を図る。教員研修の改善、生徒対象の感染症対策、防犯・防災・衛生教育を行う。
	24 情報管理	情報管理の改善を図ると共に、必要な情報機器・システムの整備を行う。SGH及び英文ホームページを円滑に運営する。
	25 施設整備	予算縮減化の中、業者による校舎清掃、必要な学習環境の整備を行う。空調管理、ICT教育環境について検討し充実させる。
学校経営	26 学校評議員会	学校評議員会の学校運営協議会（コミュニティスクール）への改組について、神戸大学及び附属学校部と協議しながら検討を進める。
	27 人事計画	教員急減期をふまえ、交流人事等の人事配置計画を慎重に遂行する。また、指導教諭制度等を活用し教員の資質向上に努める。校内人事組織に関する次年度計画を策定する。
	28 同僚性の構築	授業力・教育実務向上、ハラスメント対策等の研修を実施する。同僚性を高める場として、相互理解、合意形成の場を確保し、校内の授業公開等を活用する。各種プロジェクトや研修出張を支援する。
	29 財政措置	予算急減に対応するため、借入金を継続すると共に、緊縮財政を徹底する。教育環境整備費と施設説示充実費の寄付金額について教育後援会と共に検討する。
	30 働き方改革	「働き方改革」の提言に基づき、勤務時間管理、勤務時間内における協同業務実施の徹底、業務時期の分散化、部活動等の見直しを行う。事務室との一体的運営を定着させる。
	31 保護者対応	学年保護者会のPTA共催方式を継続する。PTSAの活動を推進すると共に、保護者と学校が情報共有できるよう工夫する。
大学連携	32 適性検査広報	オープンスクール、文化祭招待、適性検査説明会及び接続進学説明会等を通して、入学適性検査の広報活動を徹底する。平成31年度入検の枠組みを周知する。
	33 高大連携	神戸大学との高大接続入試の成果を継承しつつ、「志」特別入試に備える。同時に高大接続入試の検証作業を進める。接続進学入試について必要な見直しを行う。
	34 一貫教育	附属学校の将来構想の検討の一環として、初等・中等・高等グローバル教育センター発足に伴い、英語・ESD・ヘルスプロモーション等の事業を進める。